

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500458		
法人名	医療法人こうえい会		
事業所名	グループホーム明香苑		
所在地	山口県周南市代々木通り2-27		
自己評価作成日	平成22年5月7日	評価結果市町受理日	平成22年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり、一緒に、楽しく」という事業所理念の下、入居者はもちろんのこと家族及び施設外部の人たちとの交流を大切にしています。職員一人一人が何時でも気軽に訪問でき、遊んで帰れる施設づくりを心がけており、面会の家族も入居者と一緒にお茶を飲んだり食事を摂ったりもしています。家族・地域の方・元スタッフの乳児や幼児が共に気軽に立ち寄る家庭的な雰囲気をもっています。特に幼児の来苑時には入居者の笑顔がとても良くその笑顔を引き出せる関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者の理解で、職員が子供を連れて出勤することが認められ、子供との交流が利用者の癒やしとなり、生き生きとし、笑顔が出て、睡眠が良く取れる等状況に変化が見られるなど活性化に繋がっています。近所の人が時々来訪され、利用者と一緒にお茶を飲みながら会話をし、地域交流が図られています。毎日、朝夕のミーティングで利用者の状況報告等を行い、職員で共有しケアに活かされています。法人医師による毎週の状況観察や一人ひとりの主治医や法人との医療連携が図られており、安心した生活がおくれるよう支援しておられます。管理者を中心に職員が明るく「ゆっくり・一緒に・楽しく」の事業所の理念を実践され、職員や職員家族、利用者、家族、地域を巻き込んだ施設づくりをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で安心して暮らしと地域生活の継続を支えるための理念を柱に置き、掲示して、日々のケアに取り入れ実践している。	住み慣れた地域の中で安心して暮らしていけるように地域密着型サービスをふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は日々のミーティングで共有し、日々のケアに取り入れて実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや花火での屋上開放により地域とのお付き合いができており、入居者は近くの美容院も利用している。隣人とは挨拶に始まりお花を持って来てくださったりコーヒーを飲みにいらっしやることもある。	夏祭りや花火大会では屋上を開放し、利用者が地域の方々と交流している。4階の高齢者支援住宅の居住者や地域の人と散歩等で会話をし、地域の一員として日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から相談を受け支援の方法をお話している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営推進会議において新メンバーとして案内するのみだった派出所の方が会議への参加及び気軽に立ち寄ることもされるようになった。	評価の意義は全職員が理解しており、自己評価は全職員で話し合い、外部評価結果は会議で検討し、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害に備えた取り組みについての話し合いにおいて地域の方より提案頂いた協力者の件で話を進めているところである。	定期的に開催し、メンバーに派出所の警察官も加わり、利用者の暮らしぶりやサービスの実際、評価の取り組み状況等について報告している。悪質商法の意見が出され意見交換したり、災害非難時に近隣の大学の学生寮の協力が得られるようになるなど、参加メンバーで共有し、サービスの質の向上に活かしている。		
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所が近い場所にあり、協力関係を築く為にも提出書類は手持ちにするようにしている。	市役所に出向いて、情報交換し、サービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解しており内部研修で話し合いスピーチロックも含めて主にミーティングを活用し、話し合い実践している。	身体拘束について管理者や職員は理解しており、スピーチロックを含めて、ミーティングで話し合い、共有し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての冊子を活用し皆で勉強している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して学び、必要性のある時は活用したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結書類を元に十分説明を行い納得いただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの相談事は直接あり内容により市の相談員や施設長へ相談し反映させている。苦情箱の設置を通しての相談は今のところない。	毎月利用料を持参される家族に意見や要望を聞いたり、介護相談員等に意見を表せる機会を設け、意見は運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者の定期訪問や会議で提案が出来る。	代表者の年1回の職員懇談や定期的訪問、責任者会議で管理者は運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と労働条件等についての面接の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での勉強会、外部堅守の為のバックアップがある。	外部研修を受ける機会を確保し、法人の内部研修や事業所でのミーティング時に勉強会を行い、働きながらトレーニングすることに取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催の研修会への参加、忘年会への参加が出来ている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	口数の少ない利用者には家族を通して耳に入る本人の思いや考えを大切にして信頼関係を築いている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に家族の意向・こちらの考えを話しながらの関係作りを行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時大切で必要な支援が行えるように家族・利用者の思いを知るように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることを大切にして後押しを計っている。計る		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家屋の出来る事はして頂くように話し、外出・通院や好みの品の購入などを行なっていたいっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気の合った近所の方が訪ねてきておりお茶の接待をしている。	カラオケ仲間や自宅に戻った時等馴染みの人との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりをつかみ、日中過ごすリビングでの席替えや模様替えを行いながら互いによき関係を保つことが出来る様に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族の訪問やTELがあり助言や手助けを行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを聞き援助に当たっているが、本人・家人の意向と食い違いがある場合には検討し最終的に本人の思いを大事に援助に当たっている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聴き取り、本人や家族と話し合いながらサービスを提供し、困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入苑時のお話から又日々の生活場面から本人の多くを知るよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事摂取・入浴・排泄・日中の新聞たたみの状況などより個々の現状把握を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングを活用してケアを見直しよりよい意見を出し合いまた家族には面会時に意見を聞き計画作成へと結び付けている。	家族から意見や要望を聞いたり、利用者との関わりの中で本人の意向を把握し、日々の様子を伝達ノートに記録し、月毎にまとめ、3ヶ月に1回モニタリングをし、意見やアイデアを反映し、現状に合った介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	伝達ノート・1日業務日誌・個人記録への記入により情報の共有を行いミーティングを活用し実績へと結び付け介護計画の見直しにも活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院の場合にもスタッフがHPへ出向き食事の見守りや、洗濯物を持ち帰る等している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議以外に交番のお巡りさんの訪問もある。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院の仕方や受診結果の報告の仕方について、事前に家族の同意を得ており、健康状態についての情報も共有している。協力医や本人のかかりつけ医と連携して、受診の際の配慮や往診等、関係を構築している。	利用者一人ひとりのかかりつけ医の通院介助を行い、主治医と事業所の関係を築いている。法人医師による状況確認も毎週あり、リハビリ訓練を週3回受診し、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化や情報を看護職へ相談・提供し適切な受診・手当てへと結び付けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のNsとの情報交換や相談に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家人とは常に現状と重度化した場合の対応について話し合いは行っている。当方で出来る事の説明と方針を話している。	重度化や終末期について早い段階から本人、家族と話し合い、事業所で出来ることを説明し、主治医や事業所医師と共にチームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	服薬管理や徘徊者への見守り・声掛けなどで事故防止に取り組んでいる。AEDの使用方法・消火活動にと消防署を交えて訓練も行っている。	マニュアルを作成し、急変や事故発生に備えて、定期的に訓練を実施し、毎月のミーティングで一人ひとりの状況に応じた事故防止に取り組んでいる。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員は避難の方法を訓練し心得ている。地域の方は高齢であり協力は難しいが近くの大学の寮生の支援をもらえるようには交渉できており調整中である。	年2回、昼夜を問わず利用者と一緒に避難訓練を実施し、運営推進会議で提案があり、大学寮生との協力が得られ、地域との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合った言葉かけや入浴時・排泄時などの援助ではプライバシーへの配慮を対応している。	プライバシーについて職員は理解しており、一人ひとりに合った言葉かけや入浴時、排泄時はプライバシーを損ねないケアに対応している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを尊重し援助している。趣味を活かしての作業では材料の購入依頼を受けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	腰痛持ちの方は日中も体を横にすることを好まれその日の調子を見て自室に帰るか自分で判断している。また常に居眠りをしている方はカラオケをかけることで目を覚ましご機嫌な方もある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭は常にパーマがかかっており日々ヘアークリームを付けくしを通す方、今までと同じ化粧品を要望され家人に依頼される方があり今までの生活が維持出来る様に支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材で利用者と共に皮むきなど行い、季節を感じとり以前の生活も思い出して頂き皆さんとの会話につなげている。食事前には台拭きや箸配りをさせていただいている。	昼と夜は周南市シルバー人材センターの職員が調理を行い、季節の食材を使い、利用者は一緒に皮むき等を行い、懐かしさを感じながら職員と一緒に食事の準備をし、食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態により栄養指導も受け、摂取量の記録を通して支援を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを利用者に合わせて行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人のパターンに合わせて援助・支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターン表を作成し、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた飲み物や食物繊維の多い食材の活用など工夫し取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日PMの時間帯で皆さん楽しんでいただいている。姉妹はいつも一緒に特に二人だけの入浴時は昔話に花が咲いている。	毎日午後から一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を楽しみ、姉妹の方は一緒に入浴し、昔話に花が咲き、個々に応じた入浴の支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜テレビを見ながら横になったり日中横になった時にはおやつ時・食事時の声掛けを行い安心して休んでいただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードの活用により理解し服薬の支援と状態の観察を行っている。		
50	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者それぞれに出来る事をして頂いている。折り紙を折る楽しみ・あげる楽しみなどの楽しんで頂くことや、新聞紙でのゴミ袋を折りみなさんに役立てて頂く事など喜びある日々を過ごしていただいている。	一人ひとりの生活歴や力を活かして折り紙や手工芸での作品づくり、カラオケ、屋上の花壇の水撒き等役割、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の自宅へ帰りたい要望あるときは家人へ連絡を取り実現している。又ぶどう狩りでは地域の方や家人の協力のもと出かけている。	日常的に買い物や公園への散歩、カラオケ等その日の希望に沿って、自宅訪問等取り入れている。ぶどう狩り等季節行事を家族や地域の方々と一緒に出かける支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	趣味の一つである折り紙の材料を購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	他県に居る姪っ子からの手紙や写真なども送られてきている。家人の面会時に他県に住む娘と携帯電話での会話もある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様に季節ごとの飾り付けを行っている。玄関に当たるエレベーターホールにはマスコットとなる金魚が泳いでおり、リビングのテーブルには皆で作ったオブジェを飾り日々楽しんでいる。	エレベーターホールにはマスコットの金魚が泳いでおり、季節感を取り入れた利用者の作品等が飾り付けてある。共用空間は不快な刺激もなく、リビングのテーブルに利用者が作ったオブジェが飾られ、ソファもあり、居心地良く過ごせる配置を工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フリースペースを共用空間として工夫し活用している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある利用者の居室へは、使い慣れたタンスを持ち込み亡きご主人の写真を飾り本人が毎朝挨拶をしていると話す。	居室は本人や家族と相談し、使い慣れた筆筒や椅子、生活用品が持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように工夫し、支援している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内での異動は椅子やタンスを活用して動ける王に又居室外ではシルバーカー・車椅子の移動が出来る様に自立への工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 明香苑

作成日：平成 22年 11月 30日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	(地域貢献) 認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々 に向けキャラバンメイトとして活かす。	地域の方、家族を認知症サポーターになっ ていただく為 養成講座の開催	推進会議メンバー、入居者家族、相談員を交え て開催する。	6ヶ月
2	14 15	職員を育てる取り組みで働きながらのトレーニ ング	サービスの質の向上	研修参加での報告会を行う。	3ヶ月
3	5	運営推進会議の参加者の顔ぶれが同じ	メンバーの拡大	・消防署へ参加依頼 ・家族へ再度参加依頼	6ヶ月
4	2	地域とのつながりでは、こちらへ出向いて頂く事 の方が多い	地域での訪問箇所を増やす	散歩に出かけ顔なじみを増やしていく	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。